

昭和63年度総会 東海支部・三重県支部と合同開催

三翠化学会

(題字は稲川先生)

第28号
昭和63年3月31日発行
三翠化学会
津市上浜町1515
三重大学農芸化学科内
電話/津(0592)32-1211
振替/名古屋9-59345
印刷/株式会社ある
電話(052)332-0861大8長谷川正

四月二十四日

三重大学農場で

三翠化学会昭和六十三年年度総会を四月二十四日(日)に、津市高野尾の三重大学生物資源学部附属農場で開催します。
当日は東海支部総会と三重県支部総会が本部総会と合同で開催されますので、ご出席下さいませようご案内いたします。
総会が附属農場でおこなわれるのは十四年ぶり、三翠化学会が発足した翌年の第二回総会の懇親会が当所でもたれました。また、大学二十一年卒業以降の会員の方々は在学中実習に

通った所であり、樹の翠も年々深くなり、自然もまた豊かに保たれていますから、ご家族とともにご参加下さい。家族の方々は総会開催中、放牧場やのり面でワラビ採りなどしていただけます。
懇親会は、野外で、ジンギスカン鍋を囲んで焼き肉パーティーをしたと計画されていますから、なるべく軽装でご参加下さい。雨天の場合にそなえてテントを用意します。

三翠化学会総会・東海支部及び三重県支部総会(ご案内)

一、日時 昭和六十三年四月二十四日

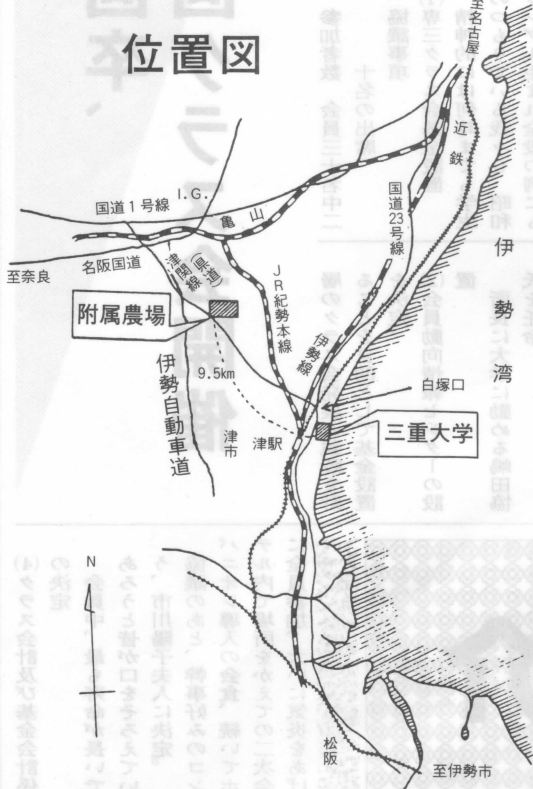
二、場所 三重大学生物資源学部附属農場
津市高野尾町二一〇

三、参加申込みは四月十五日まで
四、電話(〇五九二)三〇〇〇四

五、一、会費 会員 三、〇〇〇円
家族 一、五〇〇円

六、参加申込みは四月十五日まで
七、

位置図



会場への道案内

位置図を参考に、車の場合は伊勢自動車道の若狭ICを下り、県道津関線を津に向って二〇〇mで左折。
国道二十三号線を津に向う場合、白塚交差点を右折、県道津関線を八km西進、伊勢自動車道ガード手前二〇〇mを右折。附属農場の看板あり。
バスの場合は、津駅前バスのりば④番で乗車、標本行九・五三、十一・三三、亀山行十・〇四発いずれも「新出」下車。特急上野産業会館行一〇・三〇発「芸濃」下車(新出と同じ停留所)。なお、十一・三三発、豊里ネオポリス行があるが「フーリ」北山」で下車しても、会場までの距離が遠いのでご注意ください。

自己紹介

農産物利用学研究室
今井邦雄

先日、「こうより」編集委員の方より執事を依頼されました。私は至って筆不精のため、にげ回っていたのですが遂にっかり、新任教官は自己紹介だけではないから書くように説得されてしまいました。ごく簡単に現在に至る経歴を書かせて頂き、愛知県大山市に生まれます。大学院は名古屋まで通っていました。卒論研究は有機化学研究室で行い、大学院では農薬化学専攻でした。その後、元の有機化学研究室に助手として

新任のごあいさつ

いぬぶしかずゆき
土壌肥料学研究室 犬伏和之

昭和三十一年一月三日、東京麻布生まれ本籍地は父の郷里、徳島県ですが、幼年期一時静岡市で過ごした以外はずっと東京育ち。オリンピックの頃、その聖火台が遠望できた原宿に住んでいました。間もなく目黒に移り、中学から大学の教養時代まで徒歩または自転車通学で通りました。

生活しているという印象でした。例えば、道で重い荷物をもって苦労していると、近くにいる人達が必ず、しかも極めて自然に、私には理解困難なスイスドイツ語か又は非常に聞きやすい英語で「モゴモゴ言いながら手を貸してくれませう。最近の日本ではこのような経験をすることは減多にないのではないのでしょうか?」このような素晴らしい印象をスイスアルプスの雄大な風景と共に、胸の奥にいつか、九月十六日より三重大学農学部(農産製造学研究室)へ赴任してまいりました。現生物資源学部 農産物利用学。

伊賀肉で
伊賀上野の秋を満喫
大ニクラス会

前回は松嶋欽一先生に御出席をいただき、御挨拶をいただいた後、橋本(見一)君差し入れた地酒の銘酒に伊賀肉のパター焼に舌づみを打ち宴に入る。各自の近況報告は会場の責任者としての苦勞話から豊かな趣味の話、外国旅行の失敗談から娘

ごろです。どうぞ宜しくお願い致します。
(1) 日本ではユングフラウ、マッターホルン、サンモリッツ、ルツェルン、ジュネーブ、ベルン等が有名です。これらの観光地には驚くほど多くの日本人旅行者がいます。ユングフラウ鉄道ではなく日本語の車内放送まであるので、どうぞよろしくお願致します。
(2) スイスの言語はドイツ語、フランス語、イタリア語とロマンス語から成っています。Zürichはドイツ語圏ですが、いわゆる高地ドイツ語と全く別語と思える方言(スイスの人に言わせると高地ドイツ語が方言とか?)が話されています。このスイスドイツ語も各谷一本違うドイツ人同士でも全く通じないことがあると言っています。
(3) このように複雑な言語体系のため、かなり英語の通訳が良好です。駅の職員、デパートの店員、大学の学生等はい

自慢に孫の話、豊富な話題に流石人生の年輪を感じさせられる話ばかりであった。話題の切れた所で、秋も深まった上野市内の上野城、忍者屋敷に芭蕉生家など名所旧跡を尋ね、次回の再会を約して解散した。今回は時間の余裕がなく、出席者が少数であったが、次回は久しぶりで津市で開催する予定で、時間が許せば大きく変わっていく大学の様子も見せていただく計画です。
(木根清史)

会費納入のお願い

本年度までの会費未納の方がはかどりますので御協力下はぜひ御納入頂きますようお願い申し上げます。なお御納入頂く際、卒業回数又は年月日を記入頂きますと事務処理がはかどりますので御協力下さい。
振替 名古屋59345
(会計担当幹事 田口)



農専三回卒、第七回クラス会開催

昭和二十六年三月卒業、ブラス並木の校門から果立って、すでに三十七年、還暦を間近にひかえ、頭髪の様子はそれぞれの経験を物語っているもの、顔は極めて良好、まさに熟年のクラス会を次の通り開催。

- 一、参加者数 会員三十名中二十名の出席
- 一、協議事項
 - (1) 専三クラス会基金設置
精神的には何時までも学生のつもりである我々も、昭和シングル生まれ全般の例にもれず、肉体的な脆さが現れる年頃となりたることを悟り、一カ月以上の入院生活を余儀無く送っている級友に「健康回復奨励費」を送るなど、一層のクラス会発展と親睦を計ることを目的として基金設置を決定。
 - (2) 会員動向情報センターの設置
所長に大学に勤める嶋田協氏を任命
 - (3) クラス会写真係の決定
従前から、腕前とカメラ機能の良さからかつてていてくれた市川淳氏を正式に決定。



(4) クラス会計及び基金会計係の決定
会員中、最も寿命が長いであろうと皆が口をそろえていう、市川陽子夫人に決定。
協議のあと、幹事好みのコンビニオン導入の会食、続いてホテル内で場所をかえての二次会に全員参加、大いに気炎をあげ

職場紹介

八洲化成株式会社

伊藤 真

私の勤務する会社は、昭和十八年主要な漢方薬である甘草から医薬、化粧品、食添等に利用されるグリチルリチンの抽出製造を目的として、専一卒の今西さんらによって設立され、昭和四十二年から専一卒の東さんの参加を得て、注射薬原料グリチルリチン(商品名グリチン)と食品添加物のグリチルリチン製剤(商品名リコソフ)を生産販売して、今年で二十五年を迎えました。したがって三翠化学会員は私を含めて三名で、ミニ企業のための総人員に対して会員の占める比率は極めて大きくなります。本部の大学とは同一町内の上浜町にあって、母校の一番近くにある会社ではないかと思っております。ここで私の仕事である甘草、グリチルリチンについて要約を御案内しておきます。人類の歴史中最も古く、効力のすぐれた薬草と云われる甘草は、マメ科の多年性植物で名前のように根は甘く、コウ

シベリア・アフリカ・オーストラリア等の北緯四十五度線を中心とする自生・産出し、地下茎を葉草として用います。人類が甘草を利用したのは四千年も昔からで、インドの聖者たちが甘草を強壯剤・生命の霊薬・美容剤として衆生にすすめたことが経典に見られ、紀元前三千年頃のギリシヤ本草に(Glyks)甘(ithya)根(イメン)王の墓からたたくさんの甘草が発掘され、古代エジプトでも飲料その他に用いられていたことが立証されています。日本では唐の時代に入ったものが正倉院御物として現在も保存されています。その後漢方の発展と共に重用され、漢方の古典「傷寒論」にも唯一の単味処方として甘草湯があり、その七一八割の処方甘草が配合されています。又甘味が強く各種の味を統一緩和する独特の甘さなので、天然甘味料として古くから醬油等に使われて来ました。現

世界の甘草需要消費量は次のようなことと推定されます。
甘草根消費国/推定需要量/用途
米国/二万三万噸/食添用・タバコ用が大部分
中国/五千一萬二千噸/輸出用を含む甘草膏生産用。国内消費
日本/六千八百噸/食添用が大部分(約六五%)
ヨーロッパ/三千一四噸/食添用が多い。
インド/一千二百噸。
東南アジア/一千噸/食添用が大部分

上記のように用途の殆どは甘味・食添・タバコ調味料が多くなっています。主要な産出国は中国、ソビエト連邦・イラン・アフガニスタンの四ヶ国で殆どを占めています。原料を産出しない米国には世界最大の甘草製品会社マック&リユース社が、主としてタバコ添加用と食添用の甘草製品を製造し、一年に甘草二萬五千噸を消費すると云われていますので、同社の

買付状況によって世界の市況・生産量が変化します。次に主成分グリチルリチンの薬効作用については要約すると
(1) 抗潰瘍作用
(2) 抗アレルギー作用
(3) 細胞の活性を正常にする
電解質ホルモン様作用
(4) 解毒作用
(5) 細胞の修復作用
(6) 脱コレステロール・動脈硬化予防
(7) その他

であり最近抗ガン、抗エイズ作用まであると云うことで学会の発表が相ついでいます。天然の植物成分であるグリチルリチンを注射薬として、開発し、独自の国産技術で副作用も少く長年にわたって極めて効果の高い注射薬としているのは日本だけであり、世界に誇るべきものと考えています。これまで肝臓病には特効薬はないと云われていたが、数年前からグリチルリチンの注射薬が肝臓病に有効であることがわかって来て、特に慢性肝炎の活動型に非常に有効なことが証明されて来ていま

す。私が甘草を手がけて二年になりませんが、甘草の長い歴史の中で、ようやく一部分がわかって来たくらいと考えておりまして、今西・東・両先輩のお話では、当社は創立の初期から大学の諸先生方・同窓の皆様にすいぶんお世話になり、化学会設立初期には同窓名簿をもって東京西走されたこと、会員の皆様には大変お世話になっておりまして、紙面をお借りして御世話になった皆様は厚く御礼申し上げます。私の仕事は研究開発、管理を含めた広い守備範囲です。小さな企業ですが、特異な天然物医薬品原料をつくることのできるの病に苦しむ方々のお役に立ち、社会に貢献出来る立派な仕事と思っております。
両先輩と共に社業の発展にため、優秀な後輩会員に来ていただけるよう、独自の技術力を持つユニークな企業となるよう、がんばってゆきたいと思っておりますので、会員の皆様にはどうかよろしく御声援を賜りますようお願い申し上げます。

クラス会便り

大ニ〇回 西川司朗

昨年の犬山でのクラス会(昭和六十一年六月、幹事上田君)に続いて、三重地区の担当で開催することになった。早いものだが正倉院御物として現在も保存されています。その後漢方の発展と共に重用され、漢方の古典「傷寒論」にも唯一の単味処方として甘草湯があり、その七一八割の処方甘草が配合されています。又甘味が強く各種の味を統一緩和する独特の甘さなので、天然甘味料として古くから醬油等に使われて来ました。現

部と水産学部を併合し、新しく生物資源学部が発足する時でもあり、農学部の行方次第にだんだんぬんぬんももっている同窓生にとっても丁度よい時期と思われた。

九月十九日午後五時半、洞津会館の一階ロビーには早くも数人の懐かしい面々が歓談していらした。十五周年記念でもあり、二十回卒業生二十六名に参加を呼びかけたが、仕事の都合や私事で出席できない者がかなりあつ

た。担任の熊澤先生を中央に、伊藤(憲)、上田、小田、鈴木、高須、田中(俊)、坪内、永田、西田、藤川、渡辺君、それに広瀬、西川を加え、十三名がまわりを囲んだ。学部長として忙しい毎日を通り過ぎていた熊澤先生に乾杯の音頭をとっていただき、定刻通り祝賀を開始した。また先生に大学の事情等を話していただいたのを皮切りに、各自の近況を報告してもらった。大学二十周年にはエンターテイナーはいない。今までもそうであったが、我々のクラスは話好きである。カラオケには無縁であったが、近況報告の途中に飛び出す質問や面白い受け答えに部屋中が楽しい雰囲気包まれた。なごやかな中で一同は一枚の写真におさまった。話は尽きなかったが、宴会場を引き上げ、別室に再集合し、二次会となった。熊澤先生と最近の話題の中心となっているパイオについて

話合っている者がいる。その手が届こうとしている。しかし、どの顔も、青年を主張している。帰り際、伊藤君と水田君は至誠寮のおばさんと卒業以来初めて顔を合わせ、急いで用意した土産を手渡し、感激の対面をした。

話合っている者がいる。その手が届こうとしている。しかし、どの顔も、青年を主張している。帰り際、伊藤君と水田君は至誠寮のおばさんと卒業以来初めて顔を合わせ、急いで用意した土産を手渡し、感激の対面をした。

次回の幹事役を谷口君にお願いし、関西地区で開いてもらうことになった。次回には更に多くの同窓生に参加してもらい、話の輪を広げたいと思つてい

クラス会とは別に、卒業記念アルバムと同様に、卒業十五周年アルバムを刊行したいと思つていまして、今迄のクラスの幹事を担当された方、写真ネガを保存されている方は、西川まで御連絡下さい。詳しいことは追って連絡致します。

